

委18-1

第17回宇宙開発委員会（定例会議）

議 事 要 旨（案）

1. 日 時 昭和55年8月13日（水）
午後2時～4時
2. 場 所 宇宙開発委員会会議室
3. 議 題 昭和56年度における宇宙開発関係経費の見積り方針について
4. 資 料
委17-1 第16回宇宙開発委員会（定例会議）
議事要旨（案）
委17-2 昭和56年度における宇宙開発関係経費の見積り方針（案）

5. 出席者

宇宙開発委員会委員長代理
" 委員
" "

吉 識 雅 夫
齋 藤 成 文
井 上 啓次郎

関係省庁職員等

科学技術庁研究調整局長
" 長官官房審議官
文部省学術国際局審議官

勝 谷 保
神 津 信 男
大 崎 仁

（代理：横山）

通商産業省機械情報産業局次長

小 長 啓 一
（代理：吉田）

運輸省大臣官房審議官

" 気象庁総務部長

郵政省電波監理局審議官

宇宙開発事業団システム計画部
事務局

科学技術庁研究調整局宇宙企画課長

" " 宇宙国際課長

" " 宇宙開発課長

西 村 康 雄

（代理：黒部）

森 雅 史

（代理：山中）

三 浦 一 郎

（代理：三浦（信））

大 野 信 幸

佐々木 寿 康

佐 藤 允 克

鈴 木 晃

他

6. 議 事

(1) 前回議事要旨

第16回宇宙開発委員会（定例会議）議事要旨（案）が確認された。

(2) 昭和56年度における宇宙開発関係経費の見積り方針について

事務局より資料委17-2に基づき説明が行われたのち、以下の補足説明が行われた。

事務局：静止気象衛星3号（GMS-3）については、昨年、見積り方針を決定した際の議事要旨（昭和54年8月15日第16回宇宙開発委員会（定例会議）議事要旨）に明記されているものと同じ理由により、今回の見積り方針ではふれていない。

また、昨年の議事録には、「GMS-3の打ち上げ失敗等

の事態に対処するため、56年度に予備衛星の開発に着手することは、必要と考えている。」となっており、これは、同予備衛星のGMS-3の打上げ予定時点(59年度夏期)までに用意されている必要があると考えたことによるものであるが、今回の検討結果では、必ずしもその必要はないと判断されるので、予備衛星の開発は、昭和57年度から着手することを考えている。

こののち、齋藤委員による以下の発言ののち、見積り方針が原案どおり決定された。

齋藤：一つの衛星が打ち上げられるまでには、研究段階、開発研究段階、開発段階を経て長い年月を必要とし、その過程で様々なトラブルや技術進歩があるため、技術試験衛星Ⅲ型のように、スケジュールを変更することも考えられる。

このため、開発研究から開発へ移行する際に十分検討することはもちろん、開発へ移行してからも実施機関のみに任せず、委員会において、絶えず進捗状況を把握し、遺漏なき開発が進められるようにする必要がある。

特に、地球資源衛星1号(ERS-1)については、技術的に今後解決すべき問題が多いと考えられるので、技術的進捗状況を十分に勘案しつつ、開発研究さらには開発を進めて行く必要がある。